

甲状腺疾患とその疑いで受診された患者様、および その保護者の方(患者様が未成年の場合)へのお知らせとお願い

当院では、甲状腺疾患についての調査を行っております。この病気を診断および治療するための標準的な方法を確立することを目的としています。このため、甲状腺疾患とその疑いで受診された患者様に調査へのご協力をお願い申し上げます。

【ご協力いただきたいこと】

- 患者様の診療情報(カルテに記載されている検査結果など)を一部使用させていただきます。個人情報を除くアンケートと甲状腺検査の結果は簡単な調査票にまとめられ、国立病院機構京都医療センターへ送られます。

【ご協力にあたりご理解いただきたいこと】

- 患者様個人にお電話などで直接問い合わせることは一切ありません。調査は、患者様のカルテに記載されている検査結果などをまとめ、検討することにより行います。
- 患者様の個人情報は厳重に管理します。本調査では、あなたの検査結果などを使用し、解析後に学術論文や学会発表で公表することがありますが、「カルテ番号、氏名、住所、電話番号」など、その組み合わせを含め、個人を特定できるような情報は完全に保護され、公表されることはありません。
- ご希望があれば他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内に限って、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧することが可能です。個人情報の開示について研究対象者及びその関係者からの相談等、この調査に関してご質問のある方、**診療データを使用されたくない方は下記研究担当者までご連絡下さい。**

以下は研究の概要です。

研究タイトル:「わが国における日常診療での甲状腺機能異常症の早期診断・治療のための臨床指標の新規確立」
研究目的:甲状腺ホルモン値に異常を示す人は多く、推定される患者さんの数は約 1000 万人とされています。診断には甲状腺ホルモンの測定が必要ですが、その症状はあいまいで、甲状腺の病気を疑って見逃されてしまいます。医学書には甲状腺ホルモンの過剰や不足の場合にみられる典型的な症状がリストアップされていますが、海外の事情に基づいていて、わが国の現状に即した内容とはいえません。本研究は、甲状腺ホルモン値の異常にともなう日本人に特徴的な症状をみつけて、早期診断に役立てます。

研究方法:初診の患者さんのうち、甲状腺の病気を疑い、甲状腺ホルモンの検査を行った方を対象に、症状に関するアンケートを実施します。甲状腺ホルモンの過剰や不足の場合に特徴的なものとそうでないものを区別し、効率よく甲状腺ホルモンの検査がおこなえるような症状をみつけるため、自覚症状の有無と程度を伺う調査です。調査に参加していただく患者さんの数は約 2,300 例です。**統計に必要な、性別や年齢、甲状腺ホルモン値、受診施設名などの最低限の診療情報は、個人名や診察券番号を削除した上で解析させていただきますので、個人情報は保護されます。**実施体制:全国の国立病院機構病院による多施設共同研究(平成 28 年度 NHO ネットワーク共同臨床研究)

プロジェクトリーダー:国立病院機構京都医療センター 田上哲也

研究担当者:循環器科 米澤一也 (☎0138-51-6281:施設代表)